

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2 0 0 4 年 1 0 月 6 日

出 願 番 号
Application Number: 特 願 2 0 0 4 - 2 9 3 9 9 8

パリ条約による外国への出願
に用いる優先権の主張の基礎
となる出願の国コードと出願
番号

The country code and number
of your priority application,
to be used for filing abroad
under the Paris Convention, is

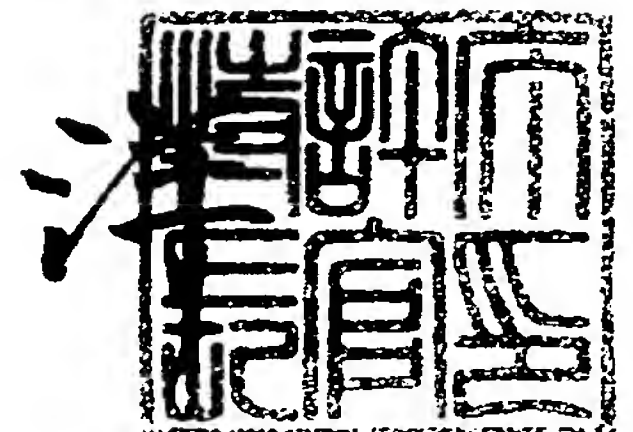
J P 2 0 0 4 - 2 9 3 9 9 8

出 願 人
Applicant(s): 三 菱 電 機 株 式 会 社

2 0 0 5 年 7 月 2 7 日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



【書類名】	付訂願
【整理番号】	552726JP01
【提出日】	平成16年10月 6日
【あて先】	特許庁長官 殿
【国際特許分類】	B60R 11/02 H04N 5/64
【発明者】	
【住所又は居所】	東京都千代田区丸の内二丁目2番3号 三菱電機株式会社内
【氏名】	幾波 孝浩
【特許出願人】	
【識別番号】	000006013
【氏名又は名称】	三菱電機株式会社
【代理人】	
【識別番号】	100066474
【弁理士】	
【氏名又は名称】	田澤 博昭
【選任した代理人】	
【識別番号】	100088605
【弁理士】	
【氏名又は名称】	加藤 公延
【選任した代理人】	
【識別番号】	100123434
【弁理士】	
【氏名又は名称】	田澤 英昭
【選任した代理人】	
【識別番号】	100101133
【弁理士】	
【氏名又は名称】	濱田 初音
【手数料の表示】	
【予納台帳番号】	020640
【納付金額】	16,000円
【提出物件の目録】	
【物件名】	特許請求の範囲 1
【物件名】	明細書 1
【物件名】	図面 1
【物件名】	要約書 1

【請求項 1】

車両ルーフに装着され、本体部が収納されたハウジングと、

前記ハウジングに回転軸を介し回転自在に支持され、収納状態から開動作状態を経て視認状態に至る間で回転するディスプレイ保持部材と、

前記ハウジングに収納された本体部とディスプレイとを電氣的に接続する接続部材と、

前記接続部材を視覚上認識できないように覆い隠して挿通させるように前記回転軸の近傍に位置して前記ディスプレイ保持部材に設けられた挿通孔と、

前記回転軸近傍の前記ハウジング側に一方向に付勢されて取り付けられ、前記ディスプレイ保持部材の回転に連れて回転し、前記接続部材を視覚上認識できないように覆い隠す接続部材カバー部とを備えた開閉式モニタ装置。

【請求項 2】

挿通孔は、ディスプレイ保持部材の一部を切り起こして形成し、その切り起こし片を接続部材カバー部の引っ掛け回転部材としたことを特徴とする請求項 1 記載の開閉式モニタ装置。

【発明の名称】 開閉式モニタ装置

【技術分野】

【0001】

この発明は本体部と回動自在のディスプレイ部とを電氣的に接続するFPC（Flexible Printed Circuit）等の接続部材を周囲から視覚上認識できないように覆い隠し、意匠上の品位を向上した開閉式モニタ装置に関するものである。

【背景技術】

【0002】

車両ルーフ等に設置され、非使用時には収納した閉状態とし、使用時には開状態にしてディスプレイ部に映像表示する従来の開閉式モニタ装置として例えば以下のものがある。

この開閉式モニタ装置は、車室天井（ルーフ）の天井トリムにテレビ取付け開口を形成し、テレビをベースプレートと、これに起倒回動自在に取付けたテレビ本体と、テレビ本体の外周を取り囲む枠状のカバー部材とで構成し、ベースプレートを上記開口を塞ぐように前後の端縁をそれぞれ開口の前後の開口縁の上面に重ね合わせ、カバー部材の前後の外周端縁をそれぞれ開口の前後の開口縁の下面に当接し、カバー部材に設けた係止部をベースプレートに係止固定して、開口の前後の開口縁をベースプレートの前端縁とカバー部材の外周前端縁との間、ベースプレートの後端縁とカバー部材の外周後端縁との間で挟み付ける構造とし、これにより、構造が簡単で、かつ、テレビと車室天井との重ね部に隙間のない車両用テレビの取付け構造を実現している（例えば、特許文献1参照）。

【0003】

【特許文献1】 特開2001-105988号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

従来の開閉式モニタ装置は以上のように構成されているが、テレビと車室天井側本体部とを電氣的に接続するFPC等の接続部材を周囲から視覚上認識されないようにカバーする（覆い隠す）構造を持たないために、ディスプレイ部が収納された状態や開動作の状態でのFPC等の接続部材が周囲から視覚上認識され、これにより、意匠上の品位を低下させているという問題があった。

この問題の対処案として、周囲の意匠部品色に合わせてFPC等の接続部材に塗装を行う方法が考えられるが、この場合には塗装費用を要し、また、この塗装に複数の色を設定した場合には部品の統一化が図れず、コストアップの要因となるといった問題が生じる。

さらに、塗装による硬化のためにディスプレイ部の開閉動作時にFPC等の接続部材の屈曲運動が妨げられ、異音が発生するという問題も生じる。

【0005】

この発明は上記のような課題を解決するためになされたもので、ハウジング側に備えられた本体部と回動自在のディスプレイ部とを電氣的に接続するFPC等の接続部材をディスプレイ部の回動角度に関係なく周囲から視覚上認識できないように覆い隠し、意匠上の品位を向上した開閉式モニタ装置を得ることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

この発明に係る開閉式モニタ装置は、車両ルーフに装着されたハウジングに回転軸を介し回動自在に支持され、収納状態から視認状態へ回動するディスプレイ保持部材と、前記ハウジング側の本体部とディスプレイとを接続する接続部材と、前記接続部材を視覚上認識できないように覆い隠して挿通させるように前記回転軸の近傍に位置して前記ディスプレイ保持部材に設けられた挿通孔と、前記回転軸近傍の前記ハウジング側に付勢されて取り付けられ、前記ディスプレイ保持部材の回動に連れて回動し、前記接続部材を視覚上認識できないように覆い隠す接続部材カバー部とを備えたものである。

【発明の効果】

この発明によれば、ディスプレイ保持部材には回転軸の近傍に位置して挿通孔を設けるとともに、前記回転軸近傍のハウジング側に付勢されて取り付けられ、ディスプレイ保持部材の回転に連れて回転する接続部材カバー部とを備え、ディスプレイ保持部材が収納状態時には前記挿通孔を設けた形状のディスプレイ保持部材により接続部材を視覚上認識できないように覆い隠し、ディスプレイ保持部材が収納状態から視認状態へ回転する間では前記接続部材カバー部により接続部材を視覚上認識できないように覆い隠すように構成したので、ディスプレイ保持部材が収納状態から視認状態へ回転しても、この回転角度に関係なく、この間で接続部材が視覚上認識されないようにすることができる。

また、接続部材カバー部は付勢力が作用しているので、車両走行時の振動等でこの接続部材カバー部からの振動異音の発生を防止することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 0 8 】

以下、この発明の実施の一形態を説明する。

実施の形態 1.

図 1 はこの発明の実施の形態 1 による開閉式モニタ装置の外観を示す斜視図であり、座席側からディスプレイ表示面側を見たときの図である。

図 1 において、この開閉式モニタ装置は、車両ルーフ 1 にハウジング 2 が装着され、このハウジング 2 に対し、収納状態から開動作状態を経て視認状態に至る間で回転するディスプレイ保持部材 3 が設けられている。このハウジング 2 はディスプレイ保持部材 3 を収納するこの開閉式モニタ装置の筐体となるものである。

図 1 はディスプレイ保持部材 3 を視認状態に回転した状態の斜視図であり、このディスプレイ保持部材 3 は例えば液晶（LCD）等で形成されるディスプレイ 3 a を備え、映像表示する。

【 0 0 0 9 】

また、ハウジング 1 側には F P C 等の接続部材（以下、「F P C」とする）を視覚上認識できないように隠蔽する F P C カバー 4（接続部材カバー部）が取り付けられ、更に、DVD（Digital Versatile Disc）等のディスク 5 をセットする挿入口が設けられている。

上記説明の図 1 に対し、ディスプレイ裏面側から見た外観を図 2 に示す。

図 2 はこの発明の実施の形態 1 による開閉式モニタ装置の外観を示す斜視図であって、座席側からディスプレイ裏面側を見たときの図であり、図 2（a）はディスプレイ保持部材 3 を視認状態に回転した状態の斜視図、図 2（b）はディスプレイ保持部材 3 をハウジング 2 に収納した状態の斜視図である。なお、図 2（a）、（b）の符号は図 1 と合わせてある。

図 2（a）、（b）に示すように、ディスプレイ保持部材 3 はハウジング 2 に収納した状態（収納状態）から開動作状態を経て視認状態に至る間で回転する。

【 0 0 1 0 】

次に、F P C の隠蔽について図 3 乃至図 6 で説明する。

図 3、図 5 および図 6 はいずれも図 2（a）または図 2（b）の A-A 方向からみた透視側面図であって（但し、ディスク 5 除く）、図 3 はディスプレイ保持部材 3 の収納状態を示す図、図 5 はディスプレイ保持部材 3 の視認状態を示す図、図 6 はディスプレイ保持部材 3 の開角度最大時の視認状態を示す図であり、図 1 と同一のものについては同一符号を付してある。なお、図 4 については図 3 に次いで説明する。

図 3 において、ディスプレイ保持部材 3 は回転軸 6 を中心にして回転自在のように支持されており、非使用時には図示のように車両ルーフ 1 に装着されたハウジング 2 に収納された状態である。このディスプレイ保持部材 3 には、ディスク 5 の再生映像等を表示するディスプレイ 3 a と、このディスプレイ 3 a の駆動回路を形成するプリント基板 3 b とが備えられているとともに、開口方向が収納状態時に車両ルーフ 1 の方向となり、F P C 7 を視覚上認識できないように覆い隠して挿通させる挿通孔 3 c がハウジング 2 に近接して

、且つ、回転軸 6 の近傍に位置して設けられている。このディスプレイ保持部材 3 の形状は回転軸 6 を境に略 L 字形の形状にしており、この略 L 字形の先端に挿通孔 3 c を設けている。F P C 7 はこの挿通孔 3 c を挿通し、上記プリント基板 3 b とハウジング 2 に収納された本体部を形成するプリント基板 2 a とを電氣的に接続している。なお、ディスプレイ 3 a の表示画面側はハウジング 2 の内面と対向する側である。

【0011】

また、回転軸 6 は極力、車両ルーフ 1 側（上側）へ寄せた位置に設けるようにする。これにより、ディスプレイ保持部材 3 を視認状態（後記図 5）に開いたときに、このディスプレイ保持部材 3 による運転席側ルームミラーに対する視界妨害を減少できる。

ハウジング 2 には上記プリント基板 2 a が収納される他、このプリント基板 2 a と上記接続するための F P C 7 が挿通する挿通孔 2 b が設けられている。

また、回転軸 6 の近傍のハウジング 2 側に取り付けられた接続部材カバー部を形成する F P C カバー 4 は回転軸 4 a を中心に回転可能であり、且つ、例えばスプリング 4 b からなる弾性部材によりハウジング 2 側に一方向（図示矢印 F 1 方向）に付勢されている。

ディスプレイ保持部材 3 が収納状態時には、F P C カバー 4 はハウジング 2 にスプリング 4 b の付勢力で固定されている。この付勢力の作用により、車両走行時の振動等による F P C カバー 4 からの振動異音の発生が防止される。

【0012】

ここで、上記ディスプレイ保持部材 3 に設けた挿通孔 3 c およびハウジング 2 に設けた挿通孔 2 b を F P C 7 が挿通する状態を図 4 で説明する。

図 4 は図 3 に示すディスプレイ保持部材 3 に設けた挿通孔 3 c およびハウジング 2 に設けた挿通孔 2 b 付近の部分拡大図である。

F P C 7 は、ハウジング 2 に近接させてディスプレイ保持部材 3 に設けた挿通孔 3 c およびハウジング 2 に設けた挿通孔 2 b を図 4 に示すように挿通し、ハウジング 2 に収納されたプリント基板 2 a とディスプレイ 3 a 駆動用のプリント基板 3 b とを電氣的に接続する。なお、挿通孔 3 c を形成しているディスプレイ保持部材 3 には引っ掛け回転部材 3 d を設けているがこれについては後述する。

前記図 3 から理解できるように、ディスプレイ保持部材 3 が収納状態にある場合、F P C 7 は図示矢印 L 1 方向が最も視覚上認識可能な方向であるが、前述のように略 L 字形の外形状にしたディスプレイ保持部材 3 に設けた挿通孔 3 c の開口方向が上方向（車両ルーフ 1 の方向）であり、且つ、ハウジング 2 に近接しているため、F P C 7 はディスプレイ保持部材 3 の外形でカバーされ、図示矢印 L 1 方向からであっても視覚上認識できないように覆い隠されることとなる。

【0013】

ディスプレイ保持部材 3 が前記収納状態から回転し、開動作状態を経て図 5 に示すディスプレイ視認状態に至った場合、このディスプレイ視認状態に至る開動作状態を含め、F P C カバー 4 が設けられていることにより、F P C 7 は図示矢印 L 2 方向から視覚上認識できないように覆い隠されている。この F P C カバー 4 が設けられていない場合には、図示矢印 L 2 方向から F P C 7 を視覚上認識できることは明白である。

また、図 5 に示すディスプレイ視認状態においては、ディスプレイ保持部材 3 の引っ掛け回転部材 3 d と F P C カバー 4 とを当接させている。この場合、F P C カバー 4 は引っ掛け回転部材 3 d とのみ当接するようにする。これにより、ディスプレイ保持部材 3 の意匠面に傷を付け、商品としての価値を低下させるといった問題の発生を防止できる。尤も、意匠面への傷防止が他の方法で可能である限り、引っ掛け回転部材 3 d 以外の箇所での F P C カバー 4 との当接を妨げるものではない。

また、この図 5 に示すディスプレイ視認状態においても、前記図 3 で説明した通り、F P C カバー 4 にはスプリング 4 b の付勢力が作用しているので、車両走行時の振動等によるこの F P C カバー 4 からの振動異音の発生が防止されている。

【0014】

ディスプレイ保持部材 3 が前記図 5 の状態からさらに回転し、図 6 に示すディスプレイ

両方反転ハ状態においては、F P Cカバー4は付勢力方向F 1と反対方向の時計方向に押し下げられた状態でディスプレイ保持部材3の引っ掛け回動部材3 dと当接を維持し、図示矢印L 2方向からF P C 7を視覚上認識できないようにしている。このように、図6に示すディスプレイ開角度最大状態の付近においては、ディスプレイ保持部材3は引っ掛け回動部材3 dでF P Cカバー4を押し下げながら回動する。

上述のように、F P Cカバー4は引っ掛け回動部材3 dによる上記押し下げ力により、回転軸4 aを中心にしてスプリング4 bによる付勢力方向F 1と反対方向の時計方向に回動する。このように、F P Cカバー4は付勢力方向F 1と反対方向に回動しつつ引っ掛け回動部材3 dと当接するので、スプリング4 bによる付勢力が作用して確実な当接が維持され、また、図3または図5の場合と同様に、F P Cカバー4からの振動異音の発生が防止される。

【0015】

なお、図6に示すディスプレイ開角度最大状態においては、通常、ディスプレイ保持部材3が所定角度以上に回動しないようにストッパー（図示せず）を設けており、また、F P Cカバー4と引っ掛け回動部材3 dとの当接関係に余裕をもたせた構造にすることにより、図6に示す状態であってもF P Cカバー4と引っ掛け回動部材3 dとの当接が外れることはない。これにより、図示矢印L 2方向からF P C 7を常に、視覚上認識できないようにしている。

また、ディスプレイ保持部材3の挿通孔3 cに設ける引っ掛け回動部材3 dに関し、この挿通孔3 cを、ディスプレイ保持部材3の一部を切り起こして形成し、その切り起こし片をF P Cカバー4の引っ掛け回動部材3 dとして利用するようにしてもよい。

これにより、引っ掛け回動部材3 dを別途形成する必要がなくなる。

【0016】

また、以上の説明では、ハウジング2側の本体部とディスプレイ保持部材3とを電氣的に接続する接続部材についてはF P C 7で説明したが、このF P C 7に限定されるものではなく、屈曲可能な例えばフラットワイヤー等の他の接続部材であっても本発明が適用できることはいうまでもない。

【0017】

以上のように、この実施の形態1によれば、ディスプレイ保持部材3には回転軸6の近傍に位置して挿通孔3 cを設けるとともに、前記回転軸6の近傍のハウジング側にスプリング4 bで付勢されて取り付けられ、ディスプレイ保持部材3の回動に連れて回動するF P Cカバー4とを備え、ディスプレイ保持部材3が収納状態時には挿通孔3 cを設けたディスプレイ保持部材3の外形によりF P C 7を視覚上認識できないように覆い隠し、ディスプレイ保持部材3が収納状態から視認状態へ回動する間ではF P Cカバー4によりF P C 7を視覚上認識できないように覆い隠すように構成したので、ディスプレイ保持部材3が収納状態から開動作状態を経て視認状態へ回動しても、この回動角度に関係なく、この間でF P C 7が視覚上認識されないようにすることができる。

【0018】

また、F P Cカバー4はスプリング4 bによる付勢力が作用しているので、車両走行時の振動等でF P Cカバー4からの振動異音（ビビリ音）の発生を防止することができ、耐振性が確保されている。

また、ディスプレイ保持部材3の一部を切り起こして挿通孔3 cを形成し、その切り起こし片をF P Cカバー4の引っ掛け回動部材3 dとして利用することにより、引っ掛け回動部材3 dを別途形成する必要をなくすることができる。

【0019】

また、上記説明の挿通孔3 cを備えた形状のディスプレイ保持部材3およびF P Cカバー4を設ける構成により、周囲の意匠部品色に合わせてF P C 7に塗装を行う、いわゆる見栄え対策としての措置が不要となり、これにより、余分な塗装費用を不要にでき、また、この塗装に複数の色を設定した場合には部品の統一化が図れず、コストアップの要因となるが、このようなコストアップをもたらすこともない。

こつに、F P C 7 に塗表を付す位置が不良となることにより、塗表による吸化のためにディスプレイ保持部材 3 の開閉動作時に F P C 7 の屈曲運動が妨げられ、異音が発生するという問題が生じることがなく、F P C 7 本来の柔軟性の特徴を生かして屈曲動作を行うことができ、スムーズな開閉動作が可能となる。また、塗装が剥がれるという問題も生じることがない。

【0020】

また、F P C カバー 4 はディスプレイ保持部材 3 の意匠面とは当接しないで引っ掛け回動部材 3 d とのみ当接して開動作するため、意匠面に傷を付け、商品としての価値を低下させるという問題が生じることがない。

【図面の簡単な説明】

【0021】

【図 1】この発明の実施の形態 1 による開閉式モニタ装置のディスプレイ表示面側からの外観を示す斜視図である。

【図 2】この発明の実施の形態 1 による開閉式モニタ装置のディスプレイ裏面側からの外観を示す斜視図であり、(a) はディスプレイ保持部材を視認状態に回動した状態の斜視図、(b) はディスプレイ保持部材をハウジングに収納した状態の斜視図である。

【図 3】図 2 (b) の A-A 方向からみたディスプレイ保持部材の収納状態を示す透視側面図である。

【図 4】図 3 におけるディスプレイ保持部材に設けた挿通孔およびハウジングに設けた挿通孔付近の部分拡大図である。

【図 5】図 2 (a) の A-A 方向からみたディスプレイ保持部材の視認状態を示す透視側面図である。

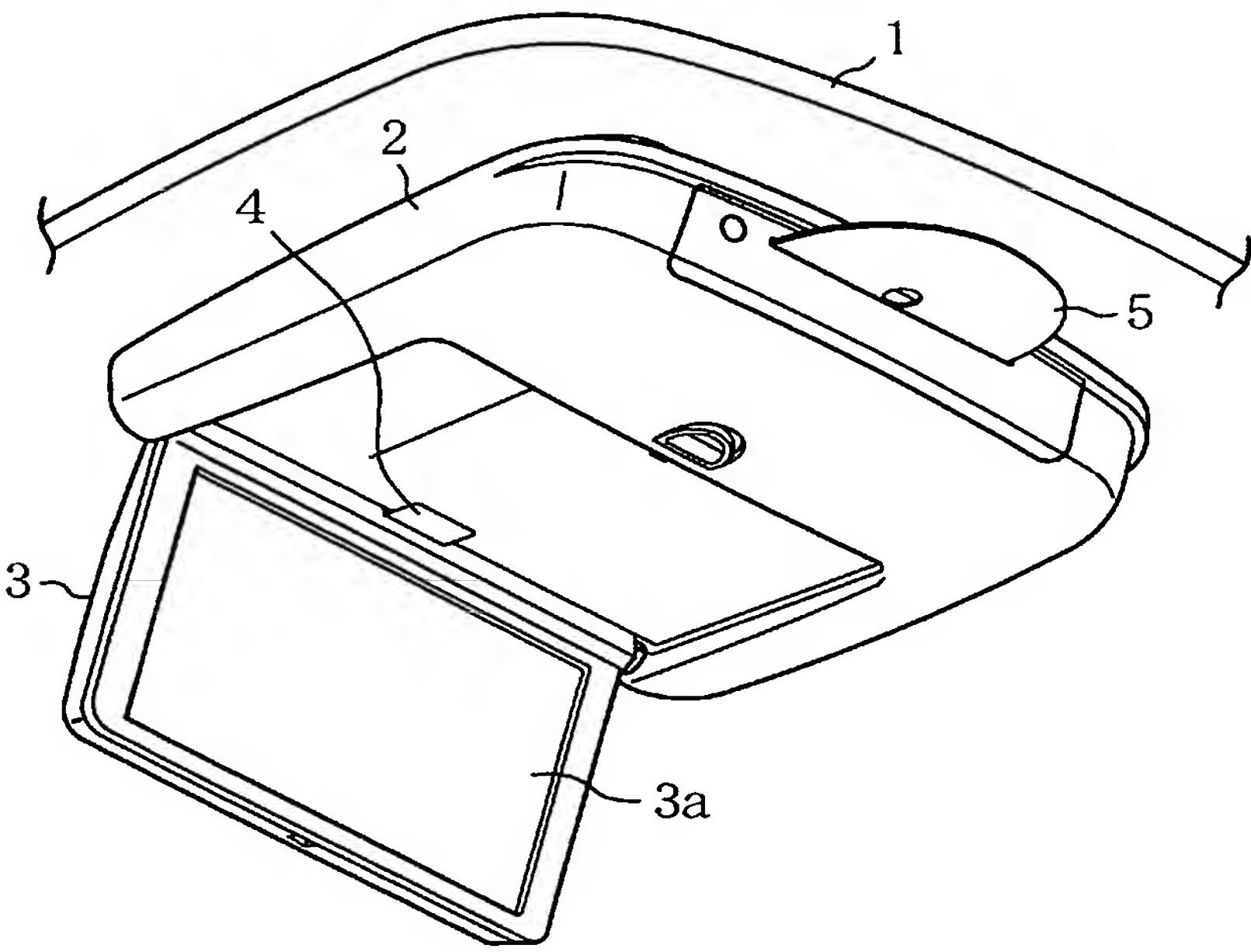
【図 6】図 5 におけるディスプレイ保持部材の開角度最大時の視認状態を示す透視側面図である。

【符号の説明】

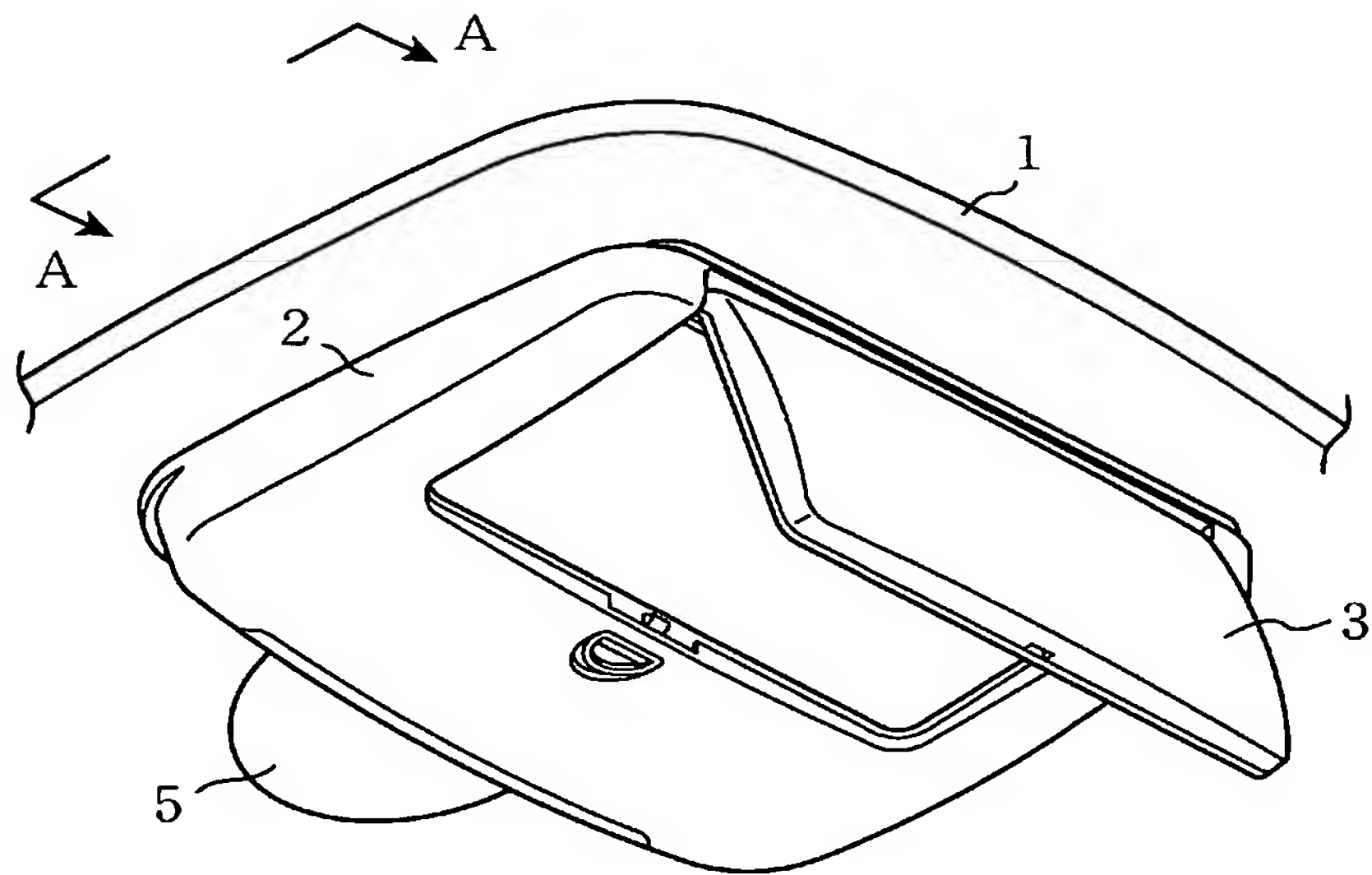
【0022】

1 車両ルーフ、2 ハウジング、2 a プリント基板、2 b 挿通孔、3 ディスプレイ保持部材、3 a ディスプレイ、3 b プリント基板、3 c 挿通孔、3 d 引っ掛け回動部材、4 F P C カバー、4 a 回転軸、4 b スプリング、5 ディスク、6 回転軸、7 F P C。

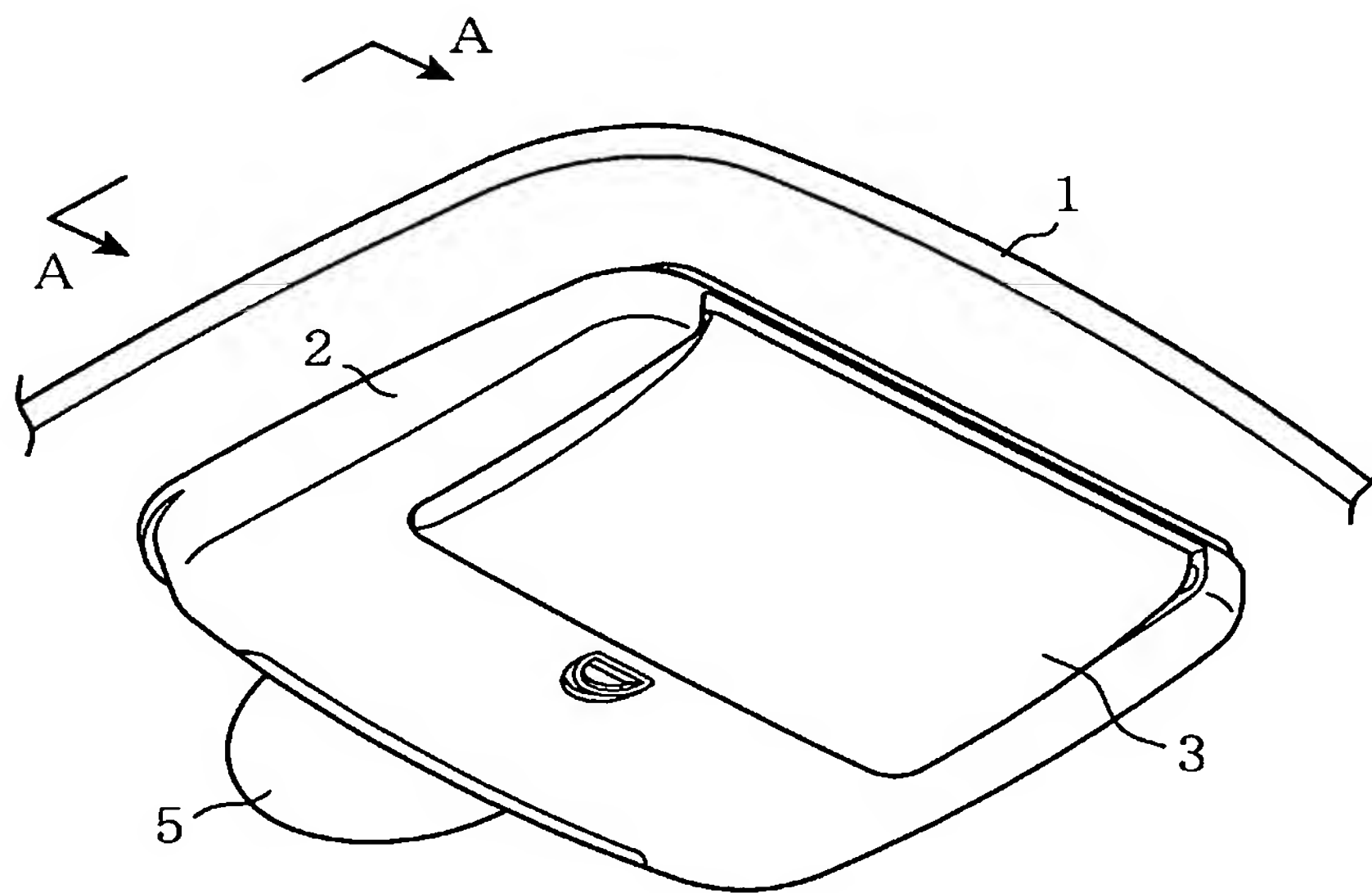
【图 1】

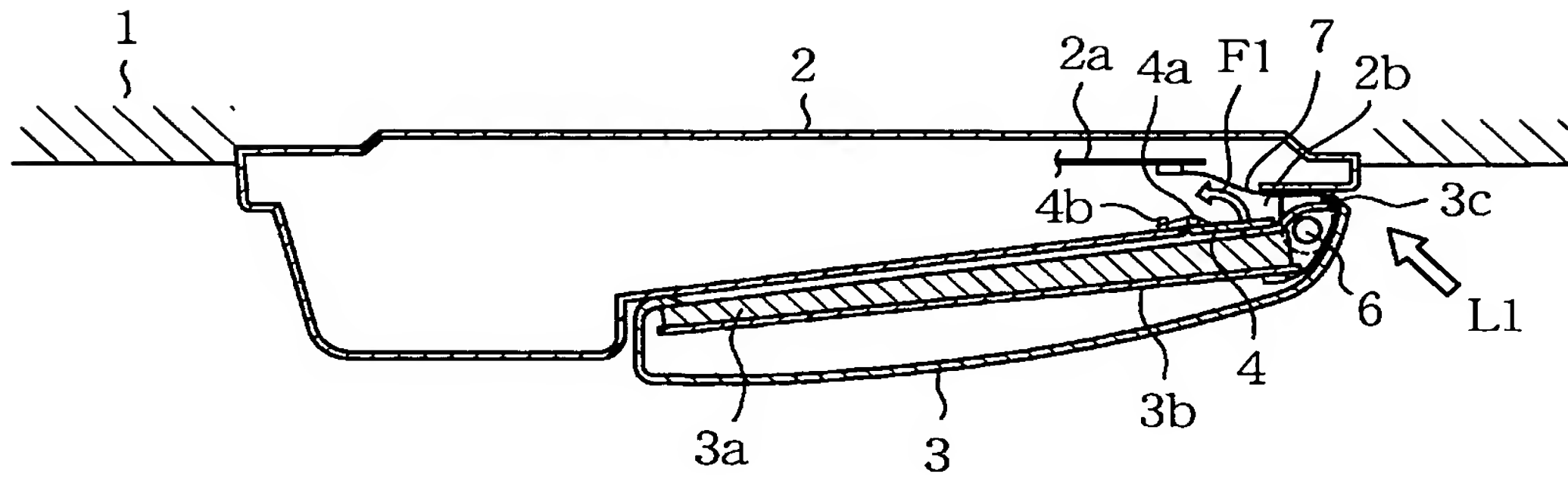


(a)

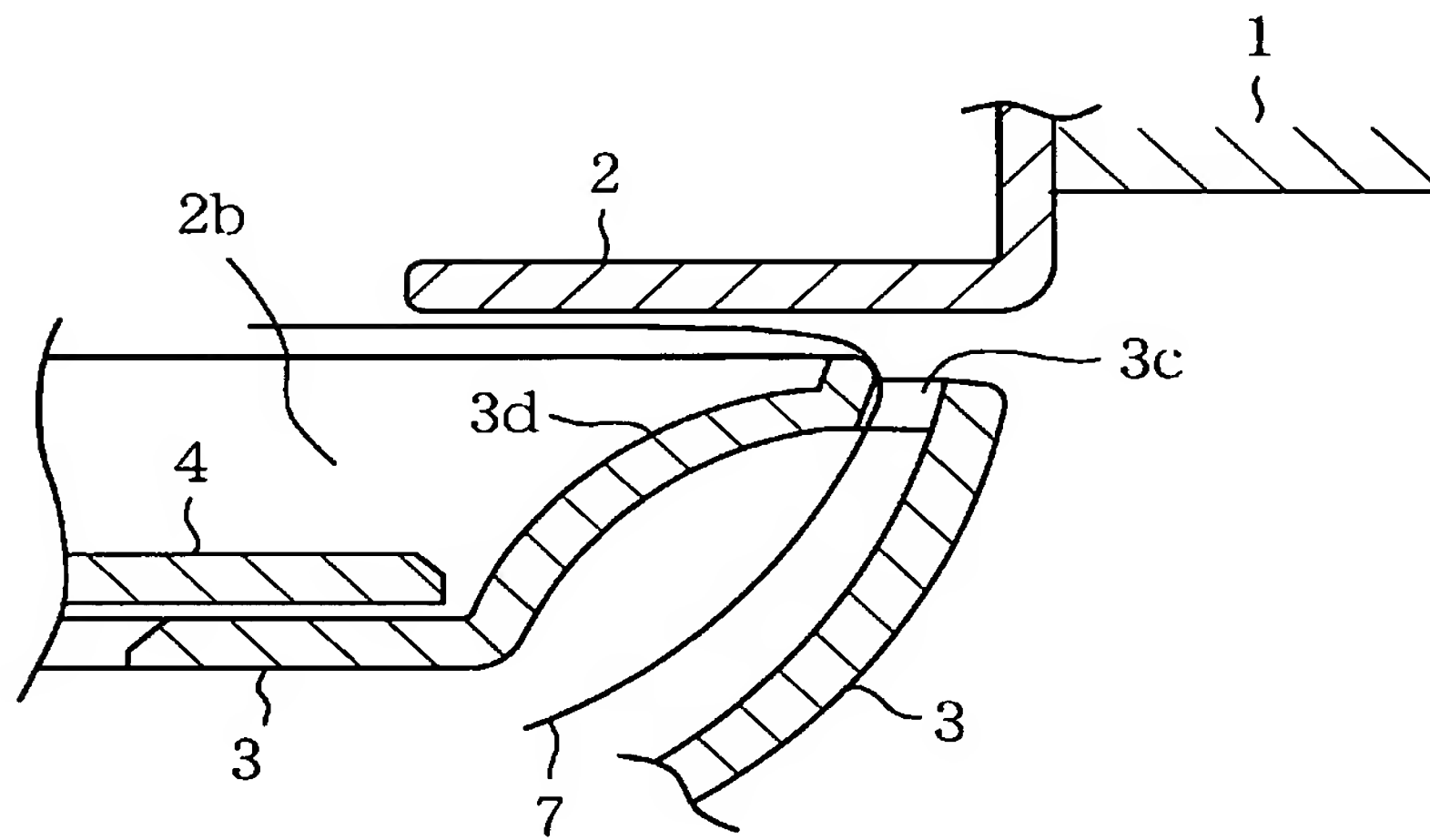


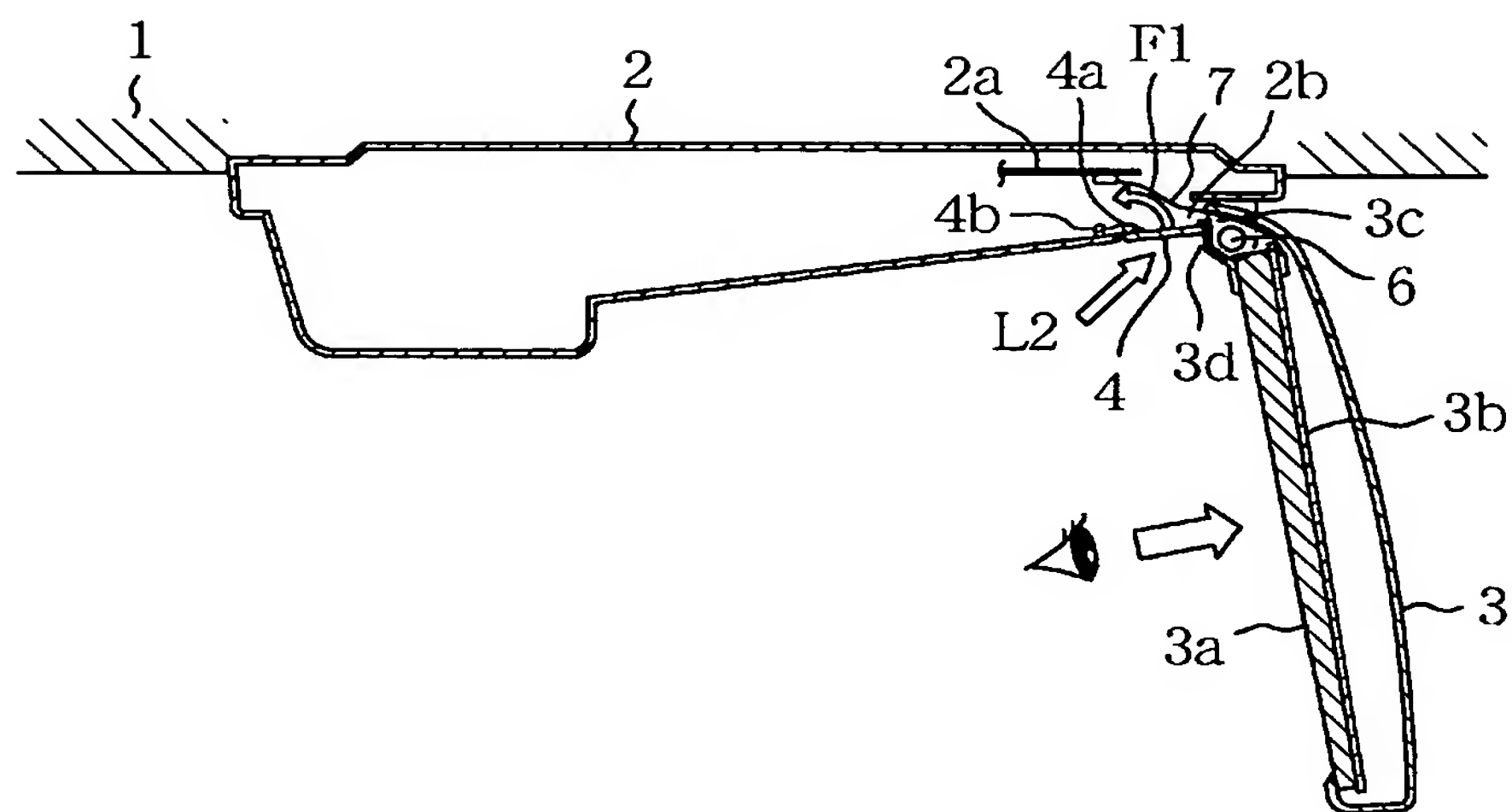
(b)



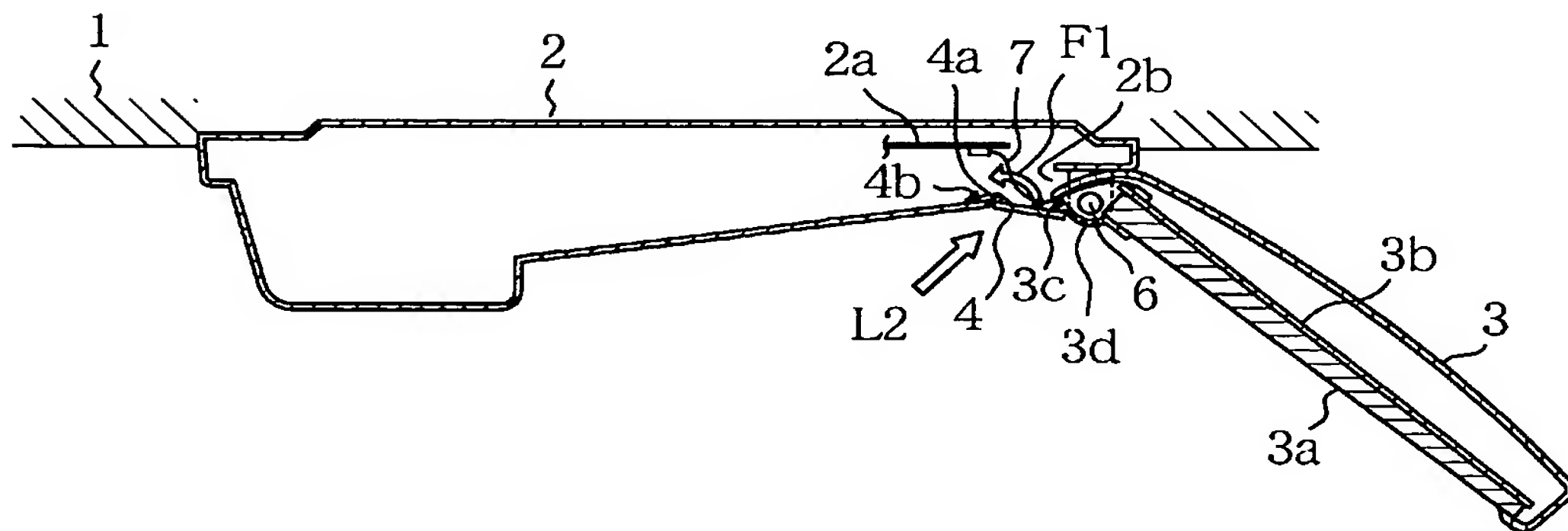


【 図 4 】





【 図 6 】



【要約】

【課題】 ハウジング側の本体部とディスプレイとを接続するF P Cを、ディスプレイ保持部材の回動角度に関係なく周囲から視覚上認識できないように覆い隠す。

【解決手段】 ディスプレイ保持部材3には、開口方向がディスプレイ保持部材3の収納状態時に車両ルーフ1方向となる挿通孔3 cをハウジング2に近接し、且つ、回転軸6の近傍に設けるとともに、スプリング4 bで付勢され回動自在のF P Cカバー4 とを備え、ディスプレイ保持部材3が収納状態時には挿通孔3 cを設けたディスプレイ保持部材3の外形によりF P C 7を視覚上認識できないように覆い隠し、ディスプレイ保持部材3が収納状態から視認状態へ回動する間ではF P C カバー4 によりF P C 7を覆い隠す。

【選択図】 図3

0 0 0 0 0 6 0 1 3

19900824

新規登録

5 9 1 0 3 1 9 2 4

東京都千代田区丸の内 2 丁目 2 番 3 号
三菱電機株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☒ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.